

# 市民満足度調査における ライフスタイル設問を用いた 多変量解析結果

1

## 背景

本市の将来都市像

「自分らしく輝けるステージ・生駒」

→ベッドタウンから脱却し、多様な生き方や暮らし方（ライフスタイル）  
に対応した都市へとまちづくりを進める

- ・市民のライフスタイルがどのように変化しているのか把握する必要がある
- ・これまでは主として年代・性別・居住地を市民の属性とし、施策立案・  
推進時の対象を捉えていたが、今後はそれだけでは不十分だと認識



令和2年度の市民満足度調査から、  
**普段の行動や意識について問うライフスタイル設問を追加** 2

# ライフスタイル設問

(1) 休日は生駒市内にすることが多い
(2) LINEやTwitter、InstagramといったSNSをよく使う
(3) インターネットをよく買い物をする
(4) 休日は友だちや家族と過ごすことが多い
(5) 近所の人とは積極的に付き合いたい
(6) 快適な生活をするためなら出費をいとわない
(7) 自分の知識・教養を高めるために時間やお金を使っている
(8) 将来に備えるよりも現在の生活を楽しみたい
(9) 生活や社会が安定して続くほうがいいと思う
(10) モノは所有するよりシェアしたほうがいいと思う
(11) 仕事・家事・学業よりプライベートな時間を大切にしたい
(12) 新しいことに挑戦したいと思う
(13) まちづくりには行政の役割が重要だ
(14) まちをよくするには市民の活動が大切だ
(15) 暮らしているまちに愛着がある

## 7段階尺度で回答

- ・とてもそう思う
- ・そう思う
- ・どちらかといえばそう思う
- ・どちらでもない
- ・どちらかといえばそう思わない
- ・そう思わない
- ・まったくそう思わない

3

# データ収集について

## 【市民満足度調査の実施概要】

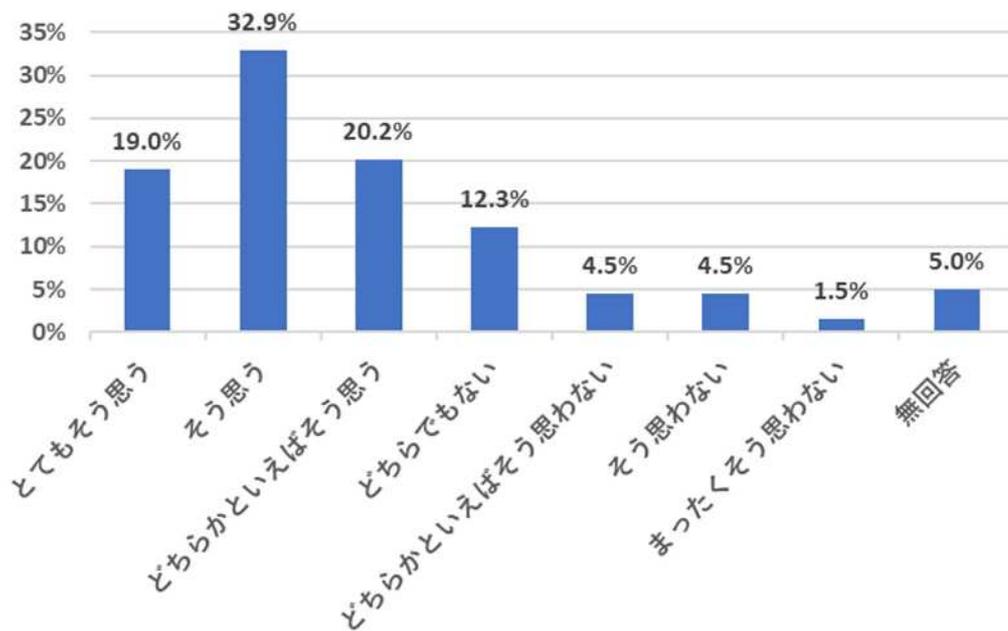
- ・ 調査期間：令和3年4月
- ・ 調査方法：郵送による配布、郵送及びウェブによる回収
- ・ 調査対象者：市内在住の18歳以上1,000人（住民基本台帳から層化無作為抽出）
- ・ 有効回答率：59.5%（595人）

4

# 単純集計結果

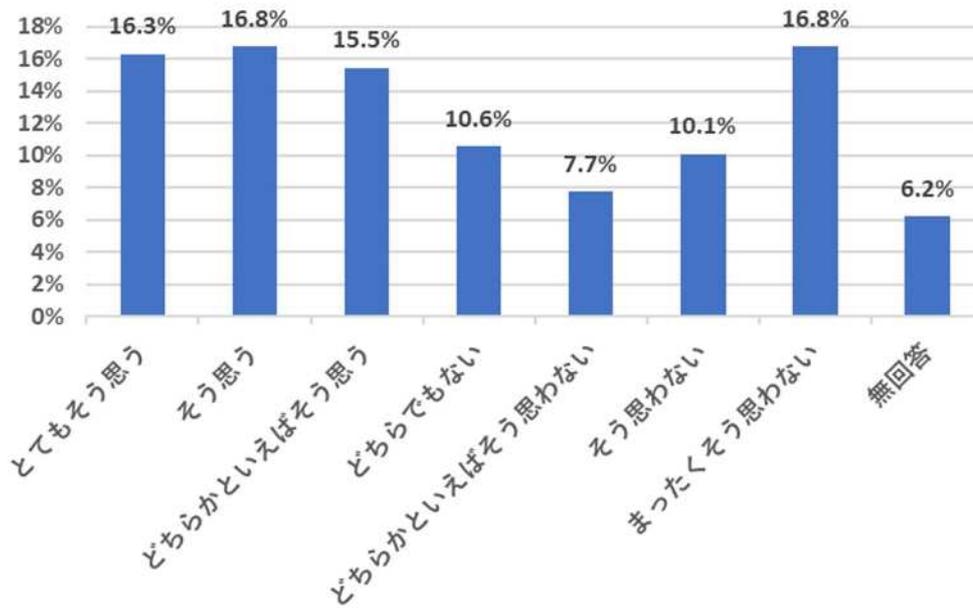
5

(1) 休日は生駒市内にすることが多い



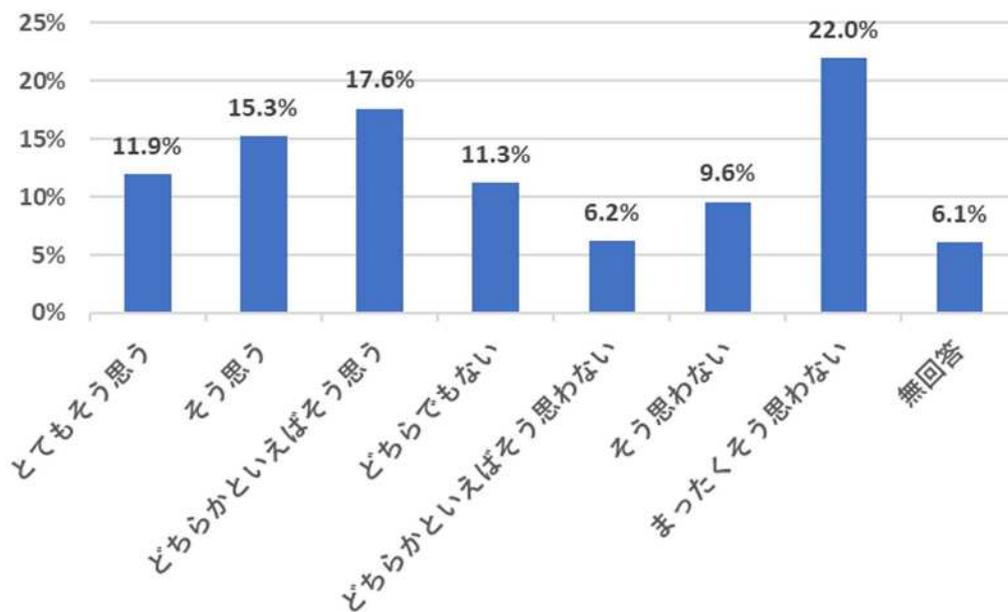
6

## (2) LINEやTwitter、Facebook、InstagramといったSNSをよく使う



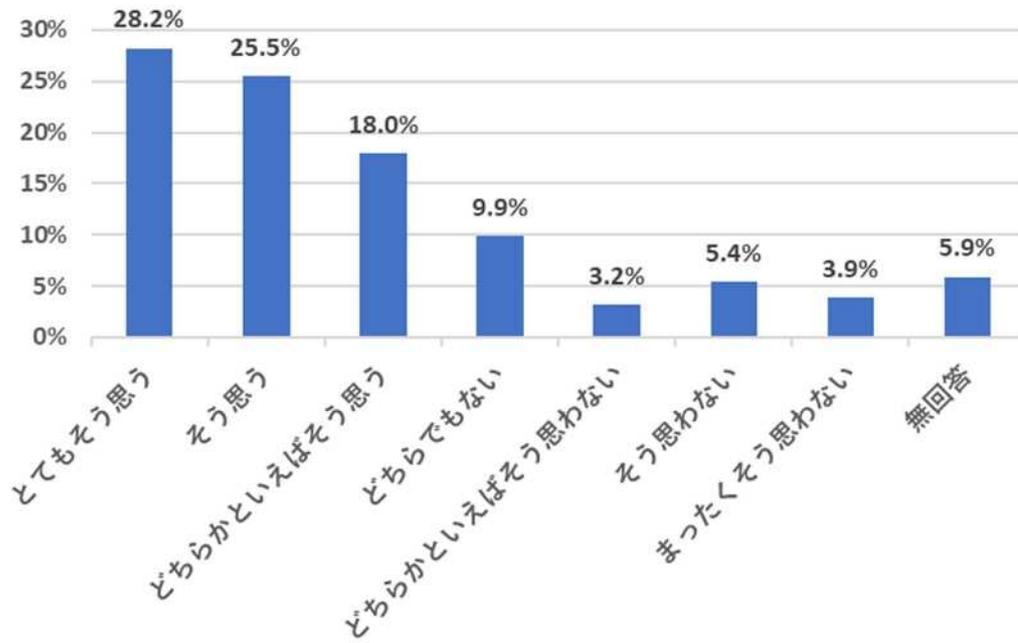
7

## (3) インターネットをよく買い物をする



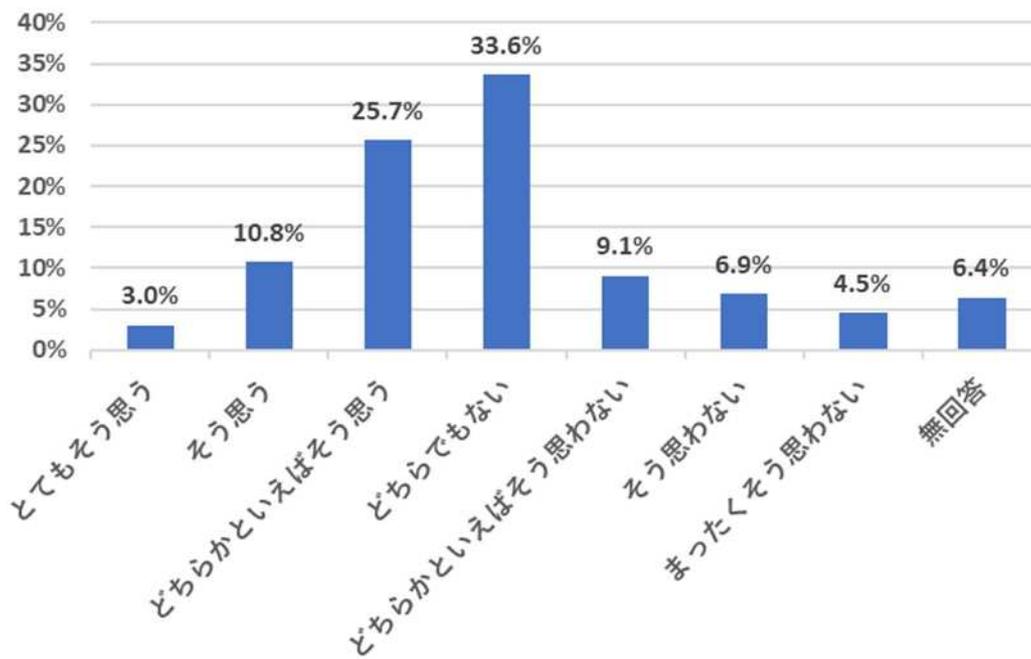
8

#### (4) 休日は友だちや家族と過ごすことが多い



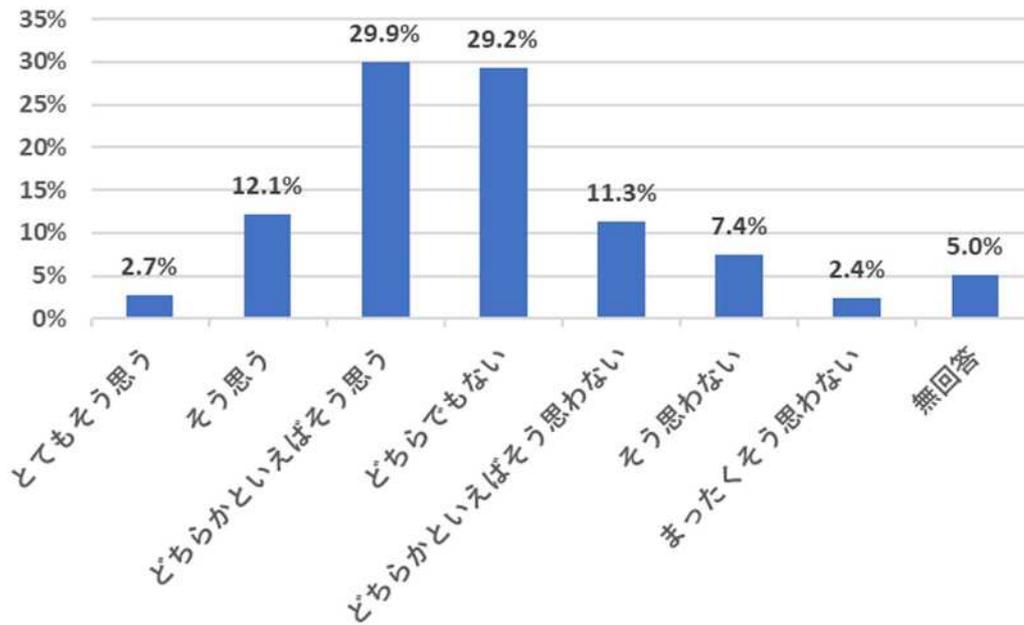
9

#### (5) 近所の人とは積極的に付き合いたい



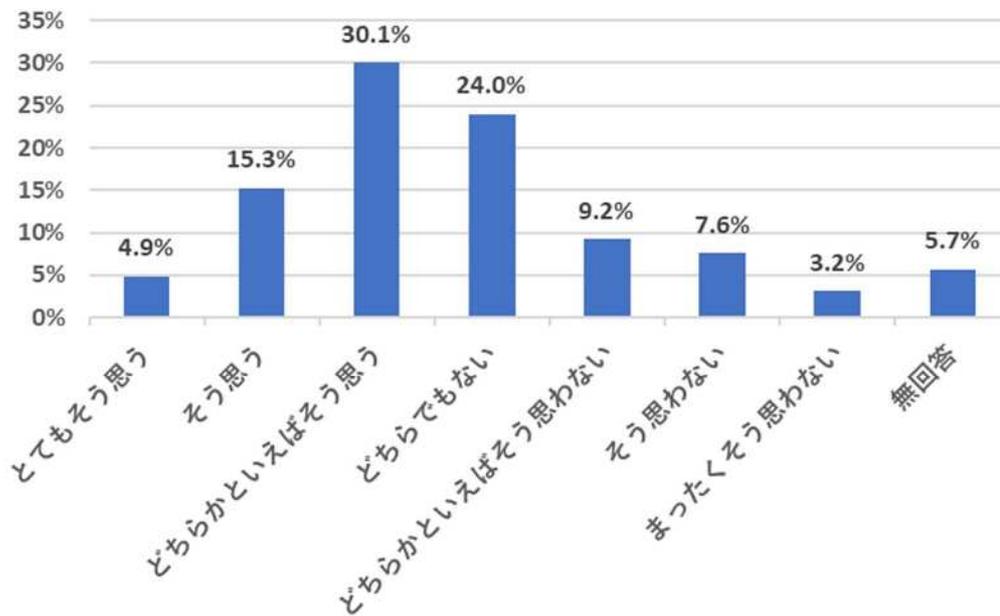
10

(6) 快適な生活をするためなら出費をいとわない



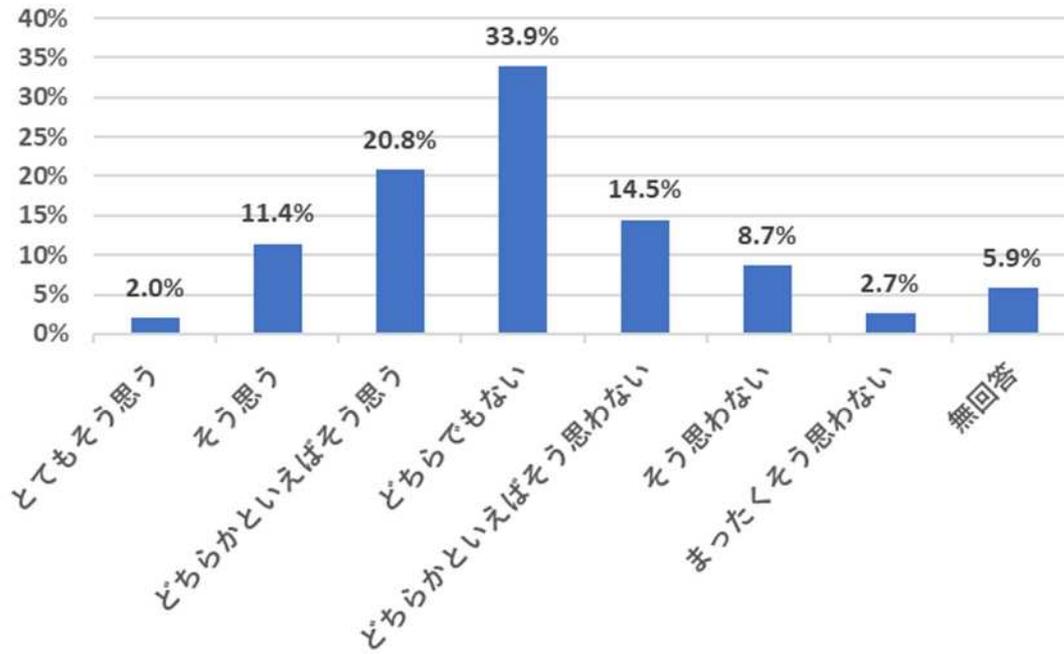
11

(7) 自分の知識・教養を高めるために時間やお金を  
使っている



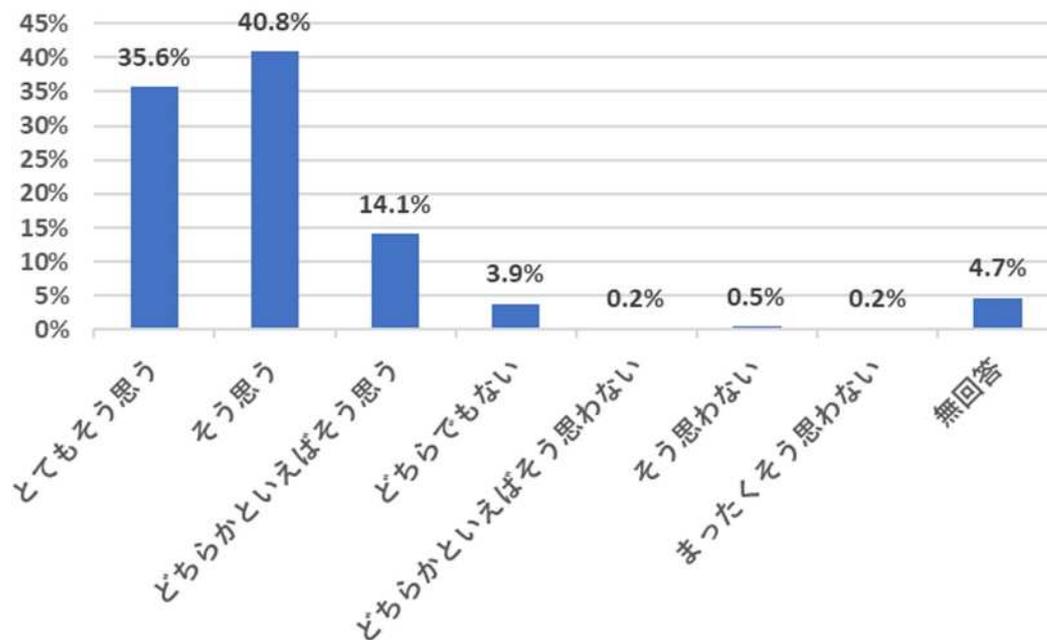
12

### (8) 将来に備えるよりも現在の生活を楽しみたい



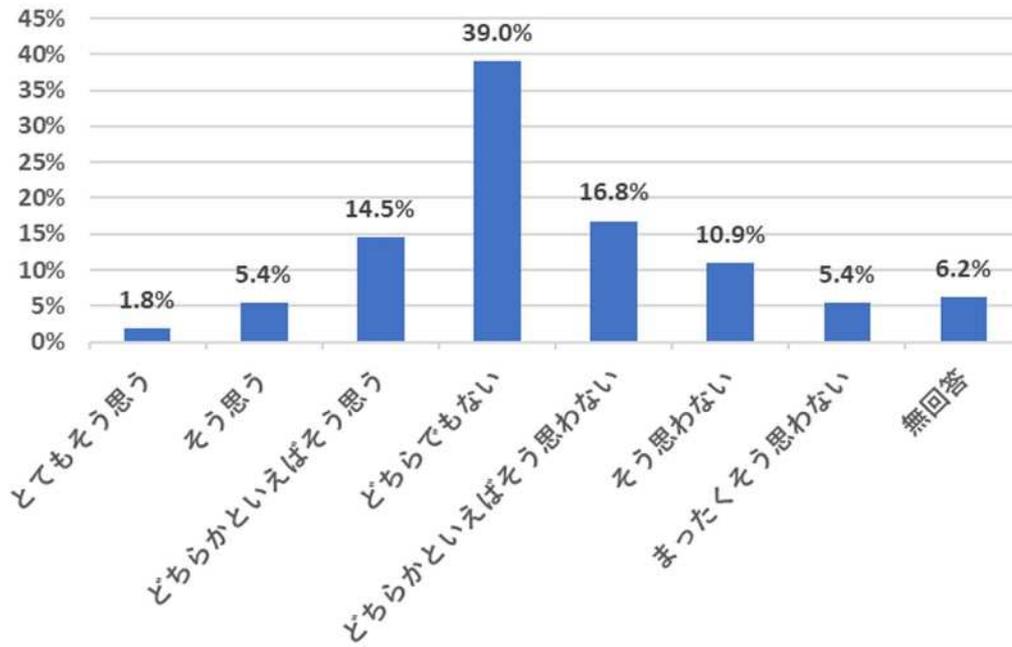
13

### (9) 生活や社会が安定して続くほうがいいと思う



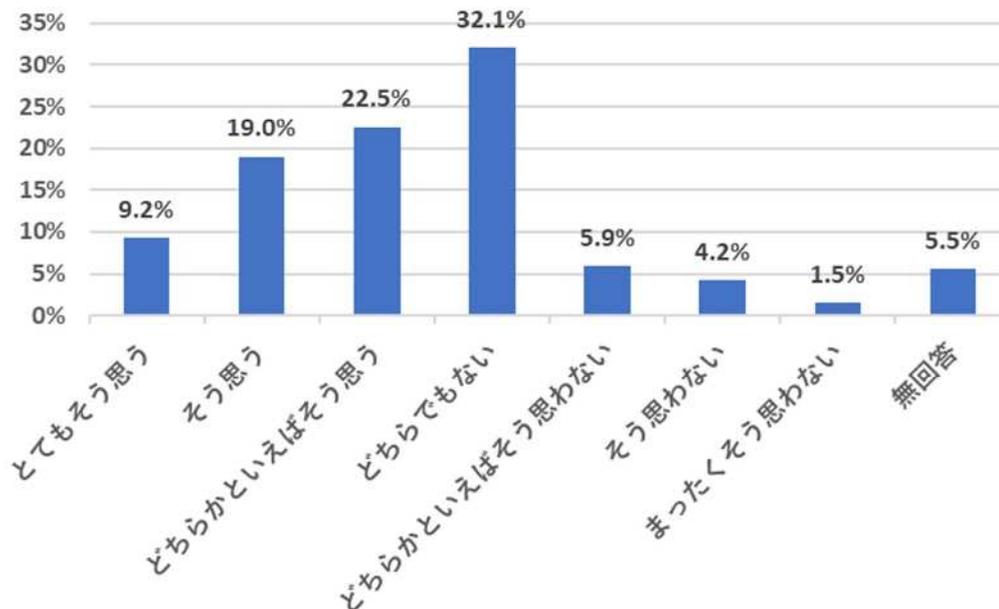
14

(10) モノは所有するよりシェアしたほうが良いと思う



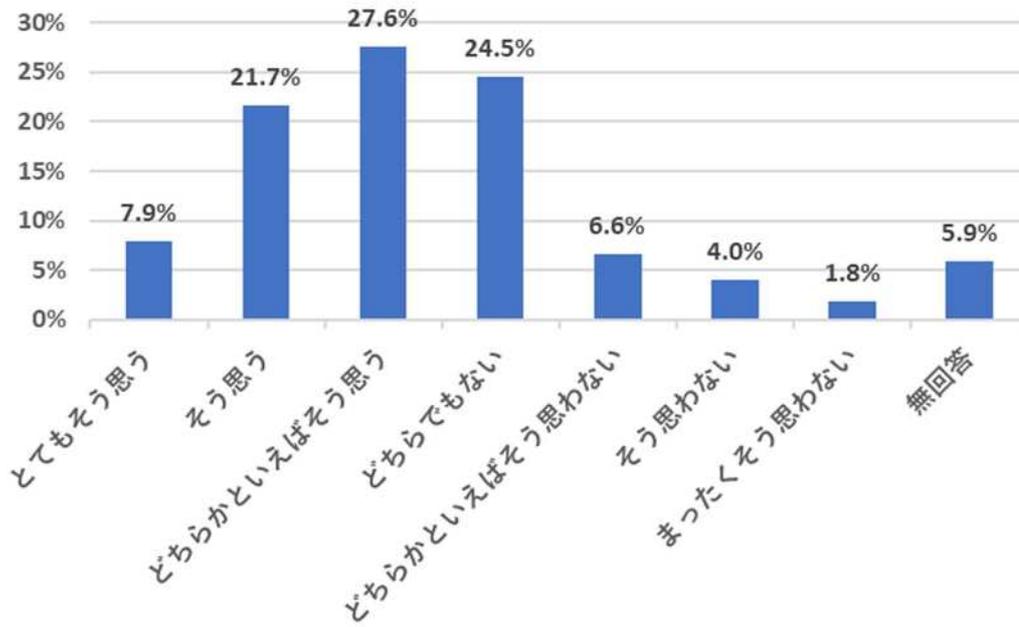
15

(11) 仕事・家事・学業よりプライベートな時間を大切にしたい



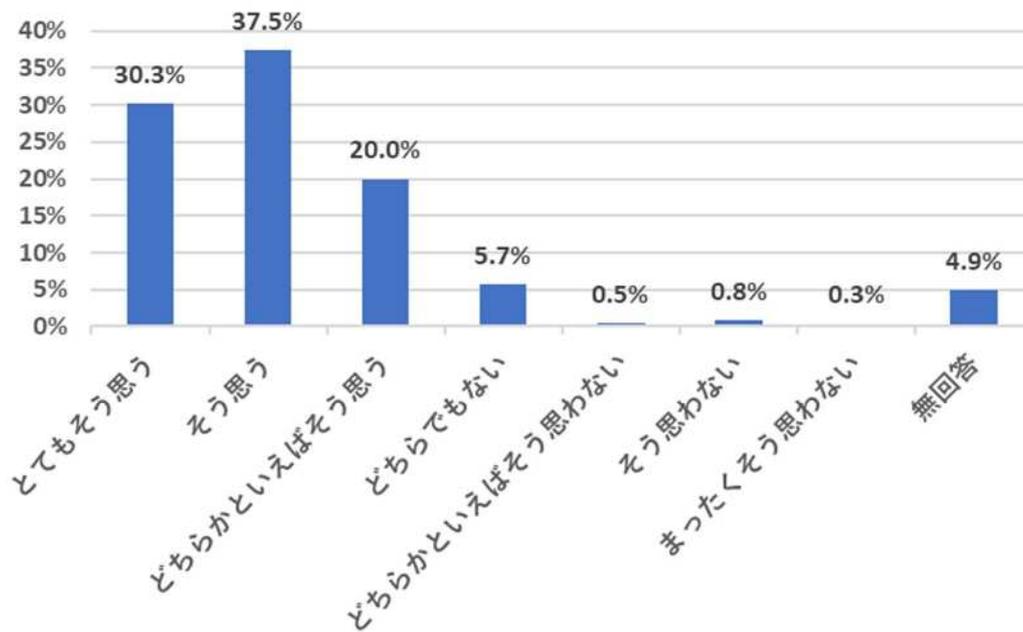
16

### (12) 新しいことに挑戦したいと思う



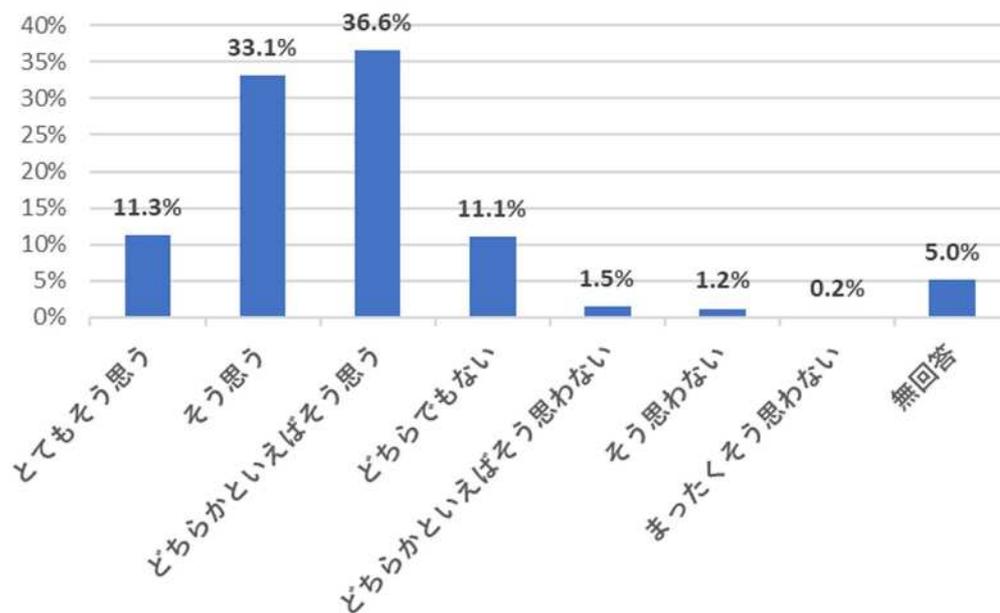
17

### (13) まちづくりには行政の役割が重要だ



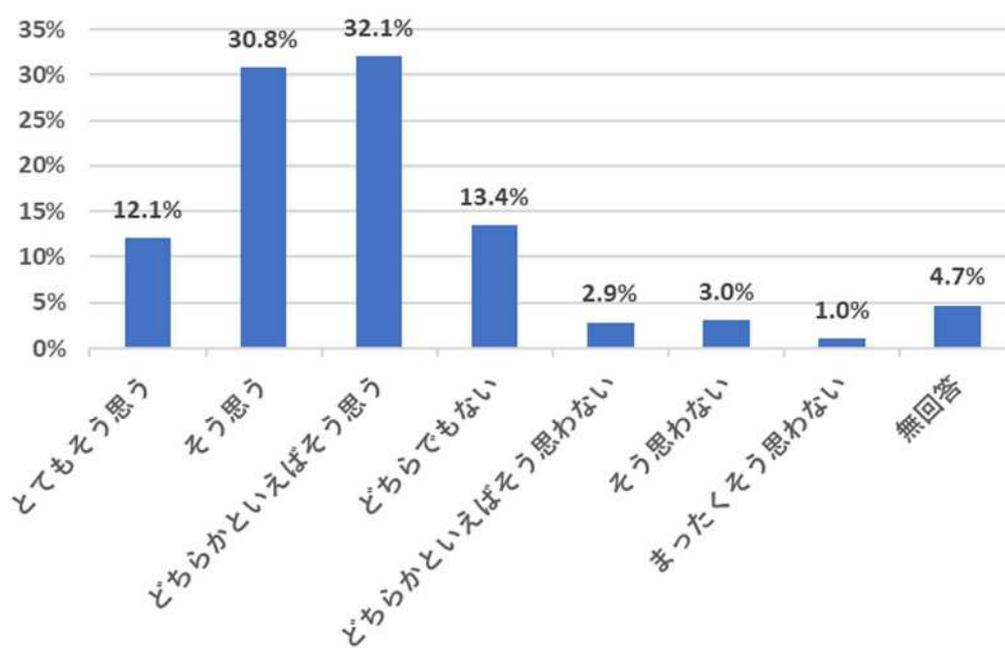
18

### (14) まちをよくするには市民の活動が大切だ



19

### (15) 暮らしているまちに愛着がある



20

# 多変量解析とは？

「何らかの対象を特徴づける変数が2つ以上ある場合、それら変数間の関連性を分析する統計的手法の総称」

変数・・・分析に用いられる情報の種類

(例) 性別、年齢、住みやすさの満足度についての質問に対する回答

関連性・・・一方が原因で一方が結果となる(因果関係)、似たもの同士の関係(類似関係)などがある

21

## 今回用いた分析方法とデータ

### 【分析方法】

#### ① 因子分析

複数の観測されたデータの背後にある共通の因子(潜在的な概念)を探す分析手法

#### ② クラスタ分析

異なる性質のものが混ざり合った集団から、互いに似た性質を持つものをグループ化する分析手法

### 【使用データ】

595ケースのうち、ライフスタイル設問以外も含めすべての質問に対して回答している443ケースを使用。

= 欠損値が1つでもあるケースは解析対象から除外。

22

# 分析の枠組み

15項目のライフスタイル設問に対する回答から、因子（潜在的な概念）を抽出する  
**因子分析**

第1因子 第2因子 第3因子 第4因子 第5因子

抽出した因子の因子得点を元に、互いに似た性質を持つものをグループ化する  
**クラスター分析**

クラスター1 クラスター2 クラスター3 クラスター4 クラスター5

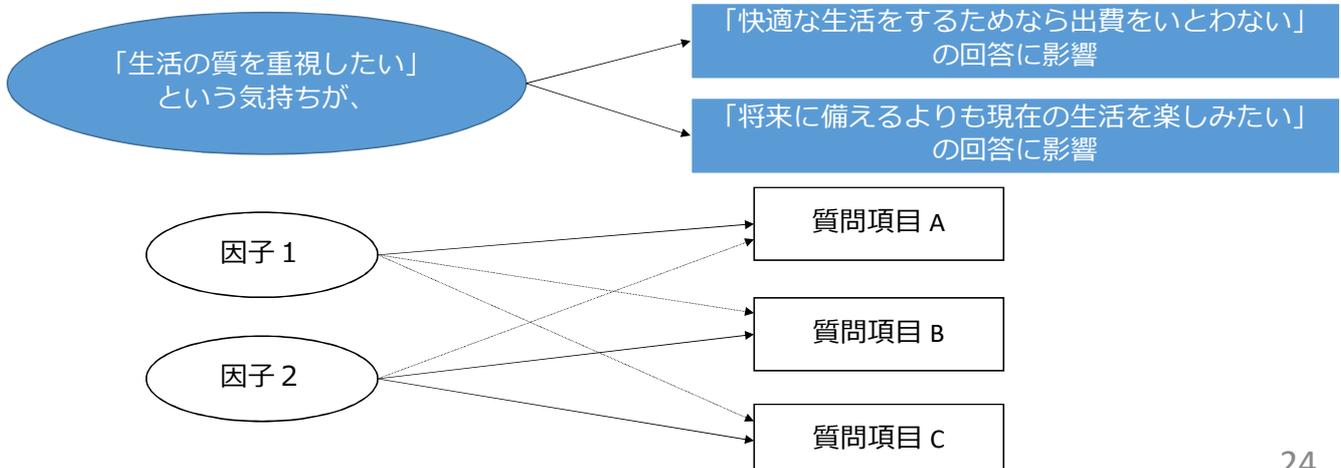
23

## 因子分析の考え方

回答者の質問項目への回答は、おおもとにある考え（**潜在的な概念 = 因子**）に影響されている。その**潜在的な概念を取り出す方法が因子分析**。因子は実際のデータではなく、あくまでも仮想的なもの。それを求めるのが因子分析。

【因子：観測できない変数】

【質問への回答：観測された変数】



24

# 因子分析結果

項目内容	※括弧内の番号は市民満足度調査の設問番号					
	F1	F2	F3	F4	F5	F6
<b>第1因子：ネット活用</b>						
(3) インターネットをよく買い物をする	.78	.00	.06	.04	-.15	-.01
(2) LINEやTwitter、Facebook、InstagramといったSNSをよく使う	.60	.13	.07	.13	-.01	.15
(4) 休日は友達や家族と過ごすことが多い	.37	-.11	.03	.22	.30	.14
<b>第2因子：生活質重視</b>						
(8) 将来に備えるよりも現在の生活を楽しみたい	-.01	.88	-.06	.00	.05	.17
(6) 快適な生活をするためなら出費をいとわない	-.19	.40	.28	.06	.18	-.01
<b>第3因子：自己啓発欲求</b>						
(7) 自分の知識・教養を高めるために時間やお金を使っている	.03	.18	.86	.07	.09	.03
(12) 新しいことに挑戦したいと思う	.17	-.04	.49	.30	-.06	.36
<b>第4因子：まち・社会への関心</b>						
(14) まちをよくするには市民の活動が大切だ	.07	.19	.10	.54	.16	.12
(13) まちづくりには行政の役割が重要だ	.11	-.06	.05	.53	.00	-.02
(9) 生活や社会が安定して続くほうが良いと思う	.06	.01	.02	.38	.29	-.03
<b>第5因子：地元志向</b>						
(5) 近所の人とは積極的に付き合いたい	.04	.11	.21	.07	.56	.16
(15) 暮らしているまちに愛着がある	.05	.31	.18	.36	.43	.09
(1) 休日は生駒市内にすることが多い	-.16	.02	-.10	.08	.39	-.05
<b>第6因子：新しいライフスタイル</b>						
(10) モノは所有するよりシェアしたほうが良いと思う	.09	.11	.08	-.02	.11	.59
(11) 仕事・家事・学業よりプライベートな時間を大切にしたい	.21	.19	-.02	.16	-.17	.23

累積寄与率  
63.48%

15項目のライフスタイル設問に対する回答から、因子（潜在的な概念）を抽出する  
**因子分析**

ネット活用 生活質重視 自己啓発  
欲求 まち・社会への  
関心 地元志向 新しいライフ  
スタイル

抽出した因子の因子得点を元に、互いに似た性質を持つものをグループ化する  
**クラスター分析**

クラスター1

クラスター2

クラスター3

クラスター4

クラスター5

27

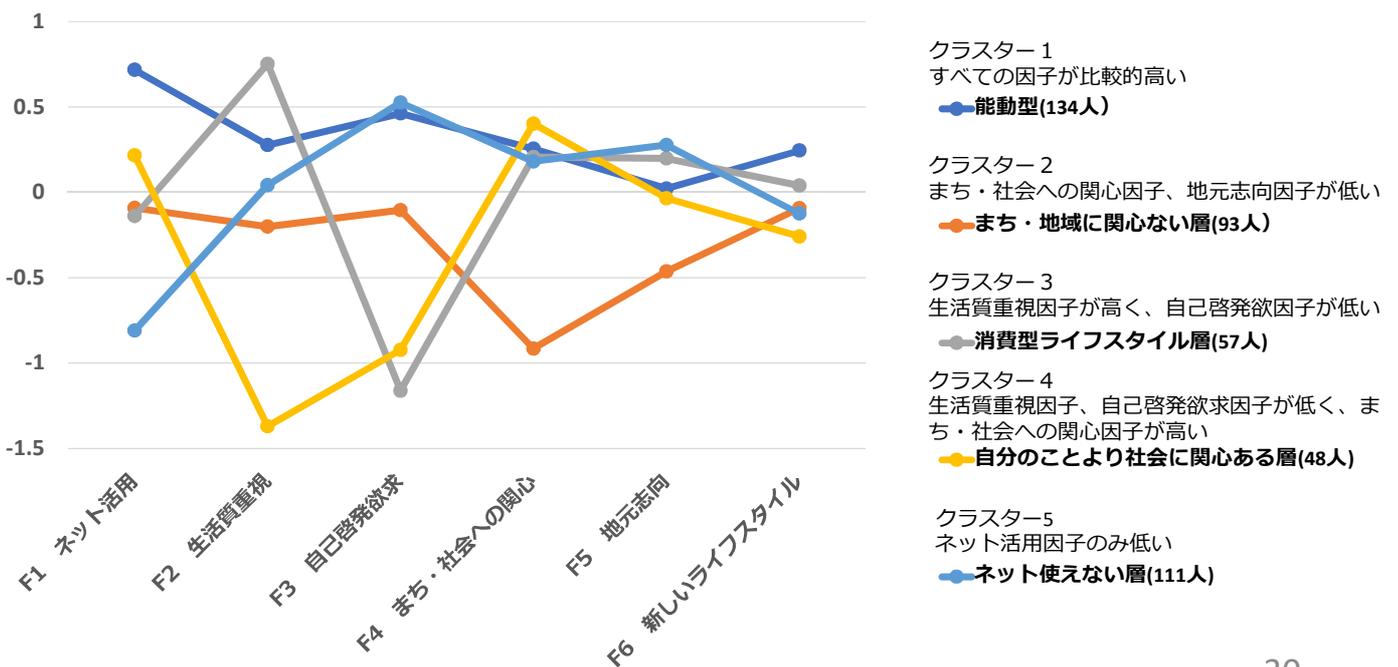
## クラスター分析結果

28

クラスター数を5で指定して分析にかけた結果、以下のように分類された。

	クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4	クラスター5	全 体
n	134	93	57	48	111	443
%	30.2%	21.0%	12.9%	10.8%	25.1%	100.0%

## クラスターの中心をプロットした図と解釈



15項目のライフスタイル設問に対する回答から、因子を抽出する  
**因子分析**

ネット活用 生活質重視 自己啓発  
欲求 まち・社会へ  
の関心 地元志向 新しいライ  
フスタイル

抽出した因子の因子得点を元に、互いに似た性質を持つものをグループ化する  
**クラスター分析**

能動型 まち・地域に  
関心なし層 消費型ライ  
フスタイル層 自分のことよ  
り社会に関心  
ある層 ネット使えな  
い層

31

## 今後の方向性

- ・ 市民の属性を捉える際、「**ライフスタイル**」は新たな属性となりうる
- ・ ライフスタイルを属性と捉えると、**市民のタイプは大きく5つに分類される**
- ・ **5つのタイプによって、施策展開は異なる**



これらを認識して施策の見直し・立案を進める

32

# クラスターを属性とした クロス集計結果

33

## クラスター×幸福度（11段階尺度）平均点

能動型	ネット使えない層	消費型 ライフスタイル層	自分のことより 社会に関心ある層	まち・地域に 関心ない層
7.59	> 7.32	> 7.28	> 6.69	> 6.09

34

## クラスター×生駒市への居住推奨度 (ある程度薦めたい+強く薦めたい割合)

能動型	消費型 ライフスタイル層	ネット使えない層	自分のことより 社会に関心ある層	まち・地域に 関心ない層
79.1%	> 72.1%	> 62.7%	> 48.3%	> 38.4%

35

## クラスター×地域の役に立つことを実践している (そう思う+とてもそう思う割合)

能動型	ネット使えない層	消費型 ライフスタイル層	自分のことより 社会に関心ある層	まち・地域に 関心ない層
19.4%	> 18.9%	> 10.5%	> 4.2%	> 1.1%

36

## クロス集計から読み取れること

**能動型の市民を増やすことは、市民の幸福**（ウェルビーイング）にとっても、**地域の未来**にとっても良さそうである。

37

## 重点施策の戦略テーマ（令和3年度設定）

→研修等を通して職員に浸透中。予算・人員を優先的にアシスト予定。

### テーマ①

「消費する」だけでなく、「**つくる**」暮らしをする人、「**受動的**」ではなく「**能動的**」に暮らす人を増やす。これによって域内の経済循環も促進させる。

### テーマ②

域外人材や民間活力をはじめとする外部リソースの積極的な活用や、地域に想いを寄せる人同士がつながるプラットフォームの創出・支援によって市民生活が豊かになる選択肢を増やす。

### テーマ③

「住む」だけでなく「滞在する」「買い物する」「集う」「働く」といった要素を増やし、彩ある暮らしが実現する都市空間を形成する。

38